

# アカイカの利用拡大 —漁場拡大及び漁期の延長—

## 【成果の概要】

アカイカの漁場拡大・漁期延長を図るため、水温や塩分といった海洋環境と漁獲量の関係を計算し、海洋モデル上での漁場予測シミュレーションにより時期ごとの漁場を推定しました。その結果、4月から8月にかけて推場が北方に移動し、なおかつ、それらが8月にかけて亜寒帯前線域に収束していくと予想されました。このシミュレーションによる推定結果に基づき、2018年度から2020年度に大型いか釣り船（図1）による操業調査を実施しました。その結果、2018年度及び2019年度共に西経域の亜寒帯前線付近で、大量漁獲がありました。特に2019年度は1操業で10トンを超える漁獲がある水域が見つかりました（図2）。また、この漁場での漁獲物の生物調査から、今まで漁獲されていた秋に生まれた群に加えて、冬や春に生まれた群も漁獲されたことで、大きな漁獲につながっていることが分かりました。

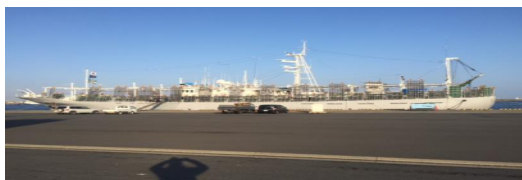


図1. 調査を行った大型いか釣り船  
(第三十開洋丸、349トン)

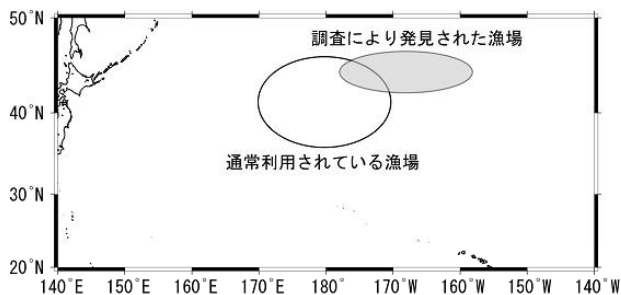


図2. 既存のアカイカ漁場と今回発見された新漁場

## 【調査・研究の背景】

現在のイカ関連業界をみると、スルメイカを対象とした「いか釣り漁業」は記録的な不漁や外国漁船の無秩序な漁業によって安定した操業が困難となっています。また、いか加工関連業界においても未曾有の原料不足に陥っており、スルメイカに代わる加工用原料確保が大きな課題となっています。

本調査は北太平洋に存在するアカイカ資源を有効かつ効率的に利用することを目的として実施し、得られた結果から漁期の拡大及び漁場の拡大の可能性に関して検討しました。

## 【業界への波及効果と今後の展望】

本調査結果により、従来1航海だったアカイカ操業は2航海に増え、総水揚量も3,000～4,000トンだったものが、7,000トンに増加しました。加えて、2020年には青森県以外の、北海道や石川県からもアカイカ漁へと出漁するようになり、本調査の他地域への波及効果も認められました。今後は、近年漁獲の低迷が続いている冬季の三陸沖漁場において、漁場環境についての調査を行っていく必要があります。今年度も調査を実施しています。